

---

# 昔好きだったあなたへ

飴玉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

昔好きだったあなたへ

### 【Nコード】

N7454H

### 【作者名】

飴玉

### 【あらすじ】

先に逝ってしまった大切な人に手紙を送ろうと思います。読んでくれるかどうかはわからないけれど、どうしても伝えたいことがあるから。『あるとき、私はあなたのことが好きでした』

お元気ですか？

思えば、あなたに手紙を書いたことなんてありませんでしたね。会って話せばいい。そんなものでしたから。

でも、ただそれだけのことが叶わなくなつて、もう3年経ちました。別に、誰を責めているわけじゃありません。

出合いがあれば別れもある。それは当然ですから。

先日、ある約束を思い出しました。

軽い口約束でしたが……覚えていますか？

たしか、二人で映画館へ行ったときのことです。

何の脈絡もありませんでしたが、私はそのとき花火が見たくなくなったのです。

おかしいですよ。それは雪が降るほど寒い日だったというのに。でもあなたは笑いながらも、約束してくれました。

夏になったら二人で見に行こうつて。

それを聞いて私、あなたを好きになつてよかつたなあと、思ったんですよ。

そして夏が来る前。

あなたは逝ってしまいました。

実のところ、そんな約束したことなんてずっと忘れていました。本当に軽い口約束でしたから。

先日、花火大会のチラシを見てふと思い出したのです。もしかしたらあなたが待っていてくれるかもしれないと思って、久しぶりに浴衣を着て出かけました。

でもいるはずがないですよ。もう3年ほど前のことだもの。あなたは待ちくたびれて、帰ってしまったかもしれない。ごめんなさいね。

まあ、花火はやっぱり綺麗でしたよ。まさに、夜空に大きな花が咲いたよう。で。

私はあなたと一緒になら手持ち花火でもよかったです。

本当は思い出せないだけで、もっと約束していたことがあったかもしれない。でも、もう、あなたと一緒にいることすらできないのですけど。

あなたなしでは生きていられないのに……なんてこと、私は言いませんよ？

あなたと出会うまでと、別れた後の時間、私は勝手に生きていたのですもの。

でももし、もう一度だけでも会えたなら。伝えたいことがあります。聞きたいなら夢の中でもいいから会いに来てください。

これから先、あなた以外の人を好きになつたとしても、私は待っています。

……あんまり遅いようならいずれ、会いにいきますね。

そのときは約束通り、二人で花火でも見ましょう。

私がどれだけ幸せに生きたかを語りながら。

では長文失礼いたしました。

また会う日まで。

あなたが昔好きだった女より

(後書き)

これはフィクションです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7454h/>

---

昔好きだったあなたへ

2010年11月5日07時31分発行